

うらぼん 盂蘭盆について



うらぼん 盂蘭盆という言葉

お盆は正式には盂蘭盆といえます。盂蘭盆はインドの言葉の「ウランバーナ(uilambana)」の音訳で、逆さまに吊るされたような苦しみという意味です。これは餓鬼界の苦しみをあらわす言葉です。

うらぼん 盂蘭盆の意味

盂蘭盆は『仏説盂蘭盆経』に説かれます。お釈迦様の十大弟子の一人に、神通第一といわれる目連尊者がおられました。ある時、目連様は亡くなった母親の後生が気になり、神通力で探しました。

息子の目連様には優しくした母親、お釈迦様の代表的なお弟子の母親です。天上界に居られるのかと思えば、さにあらず。何と餓鬼界に堕ちていました。全身骨と皮になってやせ衰え、見るからに哀れな姿でした。

確かに息子の目連様には優しくした母親、しかし身内はともかく他人に対しては思いやりや施す気持ちの希薄な冷たい人でした。その因果で三悪道(地獄・餓鬼・畜生)の餓鬼界に堕ちたのでした。

餓鬼界に堕ちると、いつも喉が渇き空腹です。辺りには食物はありません。目連様はいたたまれず、食べ物を施そうとしました。飢えた母親が喜んで食物を口に運ぼうとすると、何故かそれらはポツと音をたて燃えてしまい食べることができません。いかに神通第一の目連様の力も及ばず、母親の苦しみを救うことは出来ませんでした。

なんとか母親を救おうと、目連様はお釈迦様に教えを請いました。お釈迦様は次のように説きます。

熱帯インドの当時のこと、雨期には道が川のようになり、僧侶は布教活動や托鉢が出来ません。お寺に籠もり安居という修行をしていました。その修行を終えるのは旧暦七月十五日(八月中旬頃)です。その日に、修行を終えて清浄になった僧侶に百味の飲食を供養しなさいとお釈迦様は目連様に仰いました。

お釈迦様の言われる通りにされると、微笑みを浮かべながら天上界へ昇って行かれる母親の姿を目連様は神通力で見ることが出来ました。これが盂蘭盆の法要の起源となるお話です。

先祖をお迎えする

さて、盂蘭盆には御先祖様や故人が帰ってくるといわれますが、どういうことでしょうか。中元・歳暮の中元の日ですが、これは旧暦の七月十五日です。中国に於いて中元は畑作の収穫祭の日であります。また、俗に鬼節といい、死者がこの世にもどって来る日だとされています。たまたま、盂蘭盆と中元の日が同じ日なので二つが習合し



たのです。お盆には御先祖が帰って来るとい宗教行事はここに起源があります。

七月と八月のお盆

本来は旧暦の七月十五日が盂蘭盆の日であり、先祖をお迎えする中元の日であります。しかし実際は、一部の地方を除き月遅れの八月十五日頃に行うのが一般的です。これは旧暦に近付けるためや、ハウス栽培のない時代に七月(太陽暦)ではお供えの作物がまだ出来ないために一ヶ月遅らせたものです。

うらぼん 盂蘭盆の功德

さて、先述の『仏説盂蘭盆経』には、未来においても死者のために盂蘭盆の供養を捧げれば、現在及び過去七世の先祖にその功德が及び、在世の父母は寿命長久の功德が及ぶと説かれています。

これらが、お盆の意味と功德です。御理解戴きましたでしょうか。

うらぼん 盂蘭盆と施餓鬼法要

さて、盂蘭盆とともに修行されることが多い施餓鬼法要ですが、このことについても触れておきます。

盂蘭盆法要は『仏説盂蘭盆経』にある目連尊者が母を救う話に起因しますが、施餓鬼法要は『仏



説救拔焰口餓鬼陀羅尼神呪經』によります。こちらは、十大弟子の阿難尊者が施餓鬼法要によって口から炎を吹き出す餓鬼を救ったことが説かれます。『仏説救拔焰口餓鬼陀羅尼神呪經』によりますと、施餓鬼供養をすると餓鬼を供養して救うだけでなく、供養した者に福徳・長寿の功德が得られるとあります。



うちの先祖は餓鬼界に落ちているはずがないから餓鬼を施す施餓鬼供養は必要ないという方がおられるかもしれません。しかし、それでは身内の供養のことばかりで仏教的ではありません。『仏説盂蘭盆経』では目連尊者が母の供養のことばかり考えて、かえって供養が届かなかったのです。

願以此功德 普及於一切 我等与衆生 皆共成仏道

この経文に聞き覚えはないでしょうか。これは『妙法蓮華経化城喻品第七』の経文で、書き下せば「願わくは此の功德を以て 普く一切に及ぼし我等と衆生と 皆共に仏道を成ぜん」となります。これは大乘仏教の象徴的な経文として宗派を超えて読まれるものです。身内だけでなく、普く一切に法華経・お題目の功德を及ぼすことで、御先祖と生きとし生けるものと自分が仏となり救済されるのです。盂蘭盆や施餓鬼は餓鬼界に堕ちたものを救う善根功德が、巡り巡って、はからずも自らの先祖や我々自身を救済する素晴らしい功德となるのです。この盂蘭盆・施餓鬼は飛鳥時代の太古から日本人に深く浸透している素晴らしい行事です。

〒661-0977 兵庫県尼崎市久々知1-3-27
TEL 06-6491-0815 FAX 06-6491-0046
日蓮宗 広濟寺 住職 石伏 叡齋
http://www.kosaiji.org/ eisai@kosaiji.org

お盆のまつり方

～ 精霊棚の用意・その意味 ～

しょうりょうだな
精霊棚

ほん しょうりょう
お盆に精霊を迎えるために設ける棚です。

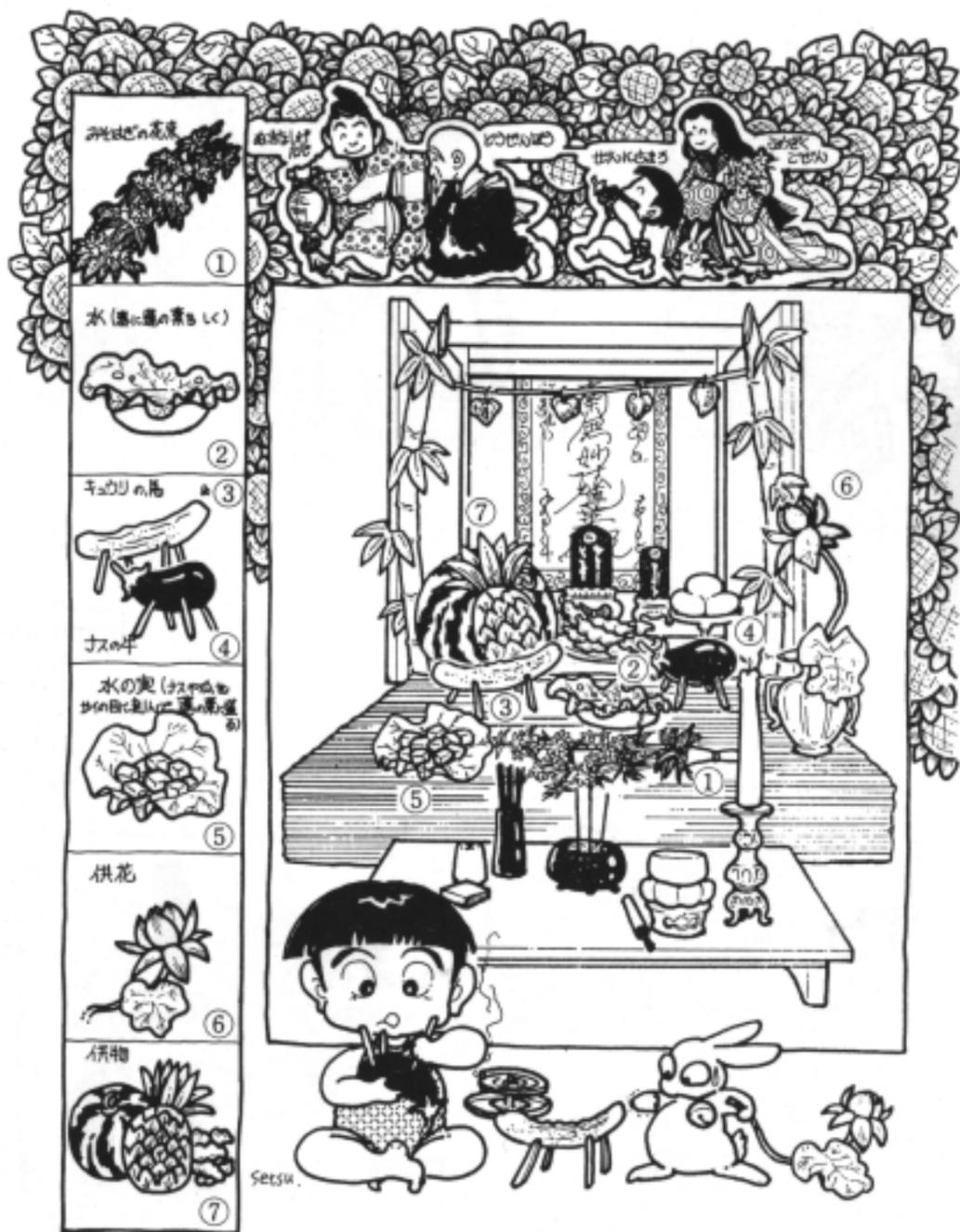
(1) 仏壇の前に机などで棚を作り、御先祖・故人など精霊に御供物を供えます。

水・菓子・果物・野菜・乾物・仏飯
故人が生前好きだった物 など

仏壇に向かって、左に生物、右に火の通った物を供えます。(左右対象に供える時を除く)

(2) 精霊棚の大きさは部屋の大きさ・仏壇の大きさ・御供物の量などを考慮し適宜考えて下さい。

(3) 棚の上には、菰か白布を敷いた方が綺麗です。



おがら
麻幹

あさ 麻の皮をはいだ茎で、花屋さんで入手できます。

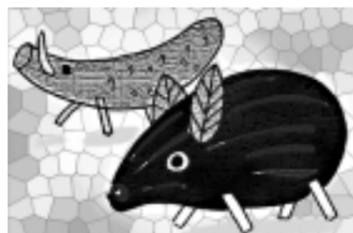
- (1) 迎え火・送り火を焚くときの燃料。
- (2) 精霊棚から仏壇までの梯子を作る。
- (3) きゅうり・なすに「おがら」の足を四本つける。

きゅうり
胡瓜の馬

きゅうり おがら わ ばし
胡瓜に麻幹の足(割り箸でも可)を四本付けて馬を作り、故人や御先祖を足の速い馬でお迎えします。早くお迎えたい気持ちを表します。

なすび
茄子の牛

なすび おがら わ ばし
茄子に麻幹の足(割り箸



でも可)を四本付けて牛を作り、故人や御先祖を名残惜しみながら、足の遅い牛でゆっくりお送りします。

ほおずき
酸漿



(ナス科の多年草で茎の高さは60-70cm)

ほおずき 酸漿は枝のまま、あるいは実に通して仏壇の上部に吊るすか、皿に盛っても結構です。酸漿は赤い色をしていますが、これはお灯明(ろうそく)の代わりです。温室栽培の出来る現在とは違い、昔はお盆の季節に赤くなる作物は酸漿だけだったそうです。御先祖が迷わないよう導くお灯明にする為のお供え物です。

きゅうり なすび ほおずき
胡瓜・茄子・酸漿のお供えの意味は現代人には一見幼稚に見えますが、その中には現代人の忘れがちな、昔の人の純粋で素朴な信仰の姿と御先祖への尊敬の念がこもっています。

ちょうちん
提灯

ちょうちん
葬儀の時の提灯でも結構です。新盆の方はなるべく御用意下さい。



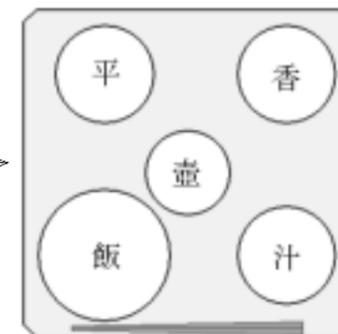
くぜん ぶっぱん
供膳(お仏飯)

(1) 器

めし 飯	大きく深い器	ご飯を盛る
汁	汁物を供える	味噌汁、おすまし
平	浅い器	煮物、椎茸、ゆば、高野豆腐等
壺	深い器	あえ物、酢の物等を供える
香	高い器	漬物を供える

(2) 注意

供える方向は仏様の方向に箸が来るように紋が付いている時は紋を手前に向ける



宮中



小笠原流

その他 (取捨選択可)

- (1) 灑水のための鼠尾草 (= 水萩)
- (2) 供物を盛る蓮の葉の皿
- (3) 初物を表す成長過程の小さな作物
- (4) 乾物、素麺、海のもの、山の物
- (5) 精霊流し・灯籠流しの船や灯籠

注意点

お盆のまつり方は、出身地などの違いなどにより、家によってまちまちです。近所の方に質問しても十人十色の答が返ってきて、かえって迷う場面もあるでしょう。お釈迦様と日蓮聖人、また故人や御先祖などに誠意が通じ、精霊に喜んで頂けることを適宜取捨選択して下さい。

ここで紹介したまつり方もあくまで一例として参考にして下さい。大切なことは形式ではなく形式に表れる心です。そして、何より大事なお供え物は「南無妙法蓮華經」と声を出してお唱えすることです。

